

令和3年度 調布市立第一小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎思いやりの心を持ち なかよく協力する ○よく考え 自分から進んでやりぬく ○じょうぶなからだで 明るい生活をする	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
・活力に満ちた明るい学校 ・子どもたちに夢と希望を抱かせる学校 ・教職員の創意と工夫が生きる学校 ・地域, 家庭との連携に努め, 地域に開かれた学校	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	学校全体が活性化し, 児童及び教職員が生き生きと教育活動に取り組むことで保護者, 地域から信頼を得ることにつながる。これまでの特色ある教育活動を充実させるとともに, 全教職員で新学習指導要領が目指す「生きる力」を本校児童につけることができよう, 教育活動を充実させる。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。自分の考えを自分の言葉や文で伝えられるように、語彙力や表現力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 日記や作文指導において、常に文の構成を意識して書けるように指導する。そのために、「いつ・だれが・どこで・なにをした」や、「始め・中・終わり」など、表やメモを活用して内容を自分で整理して書けるようにする。 スピーチやディベートにおいて、話の内容が明確になるように、構成を考えさせる。ポイントとして、事柄の順序、理由や事例などを考えさせる。また、事実と感想を区別させることを意識付ける。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 各単元における学習問題を資料等で調べ、社会的な見方や考え方を働かせ、社会的事象の特色を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活に生かそうとする態度を養う。 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考え、把握した課題の解決に向け社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことを適切に表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象から課題を見だし、資料や調査した情報をまとめ、そこから予想できることや話し合ったり調べたりする活動を通して、社会への関わり方を選択・判断し表現できるように、発達段階に応じてそれぞれの活動を取り入れて指導していく。指導の際には ICT 端末を効果的に活用する。各単元のどの部分で、多面的・多角的考察、課題解決の構想、論理的な説明、社会参加を視野に入れた議論を目指した社会的な見方・考え方を身に付けさせていくかを、問題解決的な学習過程を意識し、単元全体で見通して計画し、指導していく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な概念や性質を理解し、適切に処理する技能を身に付ける。 事象を捉え、筋道を立てて考え、簡潔、明瞭、的確に表す力を養う。 数学的活動の良さに気付き、よりよく解決しようとする態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図、式、表、グラフ、数直線、線分図、言葉などを利用して、問題解決する。 自分の考えを多様な表現方法を用いて具体的に整理させる。 習熟度に応じて、生活経験からイメージしやすい課題や、抽象的な課題、逆思考を要する課題などを用意し、考えることの面白さを味わえるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 全ての単元において、理科の見方・考え方を働かせた学習を計画的に展開し、主体的学び、対話的学び、深い学びを実現する。育てていく資質・能力は、自然事象への知識・概念、問題を見いだす力、予想・仮説の発想、解決策の発想、結果を解釈し結論を導く力とする。また、学びに向かう力として、自然や人間への親しみや尊重、科学の面白さへの気付き、妥当性を検討する態度、学んだことを日常生活に生かす態度の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然事象を量的・関係的な視点、時間的・空間的な視点、質的・実体的な視点、共通性と多様性の視点で捉えられるよう、発達段階に応じた系統的指導を行う。また、考える力を育むために、条件制御、推論、比較、関係付け、規則性、因果関係、順序性、連続性、多面性、数値化など、適切な判断基準を設定する。そのために、各単元のどの部分でどのような見方・考え方を身に付けさせていくのかを単元全体を見通して計画する
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことや感じ取ったことなどについて互いに交流し、音楽の構造について共有したり、感じ取ったことを共感したりする。客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく。 表現領域においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもち、実際に歌ったり楽器を演奏したり音楽を作ったりする過程の充実を図る。鑑賞領域においては、知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見い

		<p>だし、言葉で表しながら交流するなどして音楽を味わって聴く過程の充実を図る。</p>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・制作に対して自分の思いをもち、どのように表現するか、試行錯誤しながら想像力を働かせ、自分の考えや表現を深めることができる。 ・自分の力でありのままに表現することの価値が分かり、それぞれのよさを互いに認め合うことで、共に喜びを分かち合い、高め合うことができる。 ・学んだことや経験したことを日常生活に生かそうとし、楽しく充実した生活をつくらうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入などでは、児童があらゆる感覚を働かせることができるような実演や体験や造形遊びを行うことで、一人一人が実感をもって活動に浸り、思考力・判断力・表現力を発揮できるようにする。 ・失敗することを恐れず、主体的に取り組むことができるように、いろいろな方法を試す材料や時間を確保する。 ・学習の過程や終わりに、お互いの製作について鑑賞し、互いの違いや努力を認め合えるような話し合い活動や発表の場面を設定し、それぞれの良さを価値付けるようにする。 ・学習の終末では、活動を主体的に楽しむことができたか、学習を通して発見や気づき（新たな視点や価値観の獲得）があったか、学習経験を今後どのように生かすことができるのか、学習したことが世の中や生活にどのような関連があるか、などを振り返ることで、豊かな情操や人間性の涵養を促す。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に応じた各種の運動の行い方について理解し、基本的な技能を身に付ける。 ・自己の課題を見付け、その解決に向けて自ら考え、工夫する。 ・運動の日常化を図り、運動に親しむ態度を養う。 ・身近な生活における安全への基礎的な知識、健康な生活を続けていくために必要な課題を解決する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で活用しやすくするために学習カードを整理し、校内での活用を促進する。 ・動画や掲示物を活用して、運動の動きを視覚的にイメージさせることにより、自己や友達の課題を発見させ、学習方法を工夫させる。 ・正しい集団行動や整列の仕方を指導し、安全に配慮した適切な方法で運動させる。 ・用具や器具の基本的な指導の充実を図る。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で課題を発見し、学習を通して習得した知識や技能を生かして、解決しようとする意欲と態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分のこととして問題を捉えられるよう、日常生活で遭遇する場面を取り上げ、課題として設定し、「自分だったら…」という視点で考える活動を行う。授業の振り返りでは、生活をよりよくしようとする視点で考えさせる。
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 ・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や身の回りにあるものを使って遊んだり、遊ぶための道具を工夫して作ったりを通して、その面白さや不思議さに気づき、伝えようとする活動を行う。身の回りの植物や生き物に関心を持ち、それに関連した本や図鑑を探したり、進んで読んだりする活動を行う。 ・活動や体験での気づきや考えを言葉や絵などの様々な方法で表現していくようにする。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考え、人としてよりよく生きようとする。 ・自分だけでなく、周りの人も大切にすることができる。 ・誰に対しても、相手の立場を想像して思いやりのある行動ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が友達の意見を参考にして、自分の考えや意見を深められるような言語活動の充実を図る。 ・児童が自己を見つめ、生き方についての考えを深められるように、内容項目に対する振り返りの時間を十分に確保する。 ・「自分ならどうするか」など、教材に対して自分事で考えられるような発問の工夫をする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や文字などについて理解するとともに、読んだり書いたりすることに慣れ親しむ。自分の気持ちや考えなどを伝え合うことができる基本的な力を養う。主体的に、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書や本を使って、外国語の歌や日常生活の場面で使われる会話から、外国語を使うことに必然性を感じられる授業を行う。ペアや数人でのやり取りや発表を通して、外国語を使ったコミュニケーションを図る。校内に外国語の掲示物を貼り、日常的に慣れ親しむ機会を設ける。